



サイアフ・ラウンジ ヒストリー vol. 08

再考期 2020 ⇨ 2021
コロナ下の試行錯誤

【前回までのヒストリー】

オリジナルブレンドコーヒーの登場や、札幌国際芸術祭（以降 SIAF / サイアフ）2020 に連動した壁面掲示の製作など、SIAF ラウンジは 3 回目の芸術祭に向けて、着々と準備を進めていた。これまでの利用者へはもちろん、より多くの方へ足を運んでもらえるような周知もはじめた。しかしそんな中、未曾有のパンデミックが起り、SIAF ラウンジも臨時閉室を余儀なくされてしまう。

三度目の札幌国際芸術祭、SIAF2020 の開幕まであと一年となった頃、新型コロナウイルス感染症が世界中を混乱に陥れた。北海道では国内初となる緊急事態宣言が発令され、過去に例を見ない週末の外出規制や小中学校・公共施設等の臨時休館が実施された。札幌市資料館も同様に臨時休館となり、SIAF ラウンジもそれに準じる形で臨時閉室することになった。その後は、第一波、第三波と、その時の感染者数によって臨時休館の解除、あるいは休館延長の判断がなされ、なかなか先の見通しが立ちにくい状況であった。

SIAF 実行委員会では、同年 7 月に SIAF2020 の公式サイトでの開催中止が発表された。その代わりに、SIAF2020 特別編が企画され、各アーティストのプランを閲覧することができる特設サイト「SIAF マトリクス」や、オンライン上で数々のアーティストトークを配信する「SIAF TV」などが実施されていった。

その中で、今後の SIAF ラウンジにも大きく関わることになるのが、田村かのこコミュニケーションデザインディレクターが主導となり始まった「SIAF ラウンジオンライン」である。Web 会議サービス Zoom を使ったオンライン上の架空の「SIAF ラウンジ」に参加者が集まり、アートにまつわるあれこれをおしゃべりするプログラムで、SIAF2014 の会期後半にボランティア有志を中心としてはじまった、作品の感想を共有し合う場「アートカフェ」資料館」を参考にしたものである。2020 年 10 月に第一回がスタートし、田村ディレクターの任期終了後は SIAF 事務局マネージャーの漆原博がモデレーターを引き継ぎ、月に一度、毎回異なるゲストを招きながら開催して、2022 年末現在では 27 回目を迎えている。

その他にも、SIAF2020 の企画に取り入れられていた「アートメディアエーション」の考え方と連動するような形で、子ども向け

絵本が増えたり、SIAF2020 参加アーティストの関連本が加わったことに連携して、これらの本を壁面展示で紹介する企画を行った。またカフェでは引き続き季節限定メニューを開発し、新たな利用者層の獲得を図った。

臨時休室期間中は、休室中でも何か独自に取り組めることはないだろうか、スタッフみんなで頭を悩ませて模索した。その結果、新たに挑戦することになったのが、SIAF ラウンジのことを知ってもらったためのフリーペーパー「saku saku (さくさく)」の制作、そして SIAF ラウンジの CM 動画制作だった。

saku saku の制作は、普段から SIAF ラウンジ利用者とのやりとりの中で、SIAF ラウンジの成り立ちについて聞かれることが多いことから着想した。SIAF ラウンジ開設に至る流れ、それ以降一年毎の SIAF ラウンジの動きをひもとく記事「サイアフ・ラウンジ・ヒストリー」を中心に、カフェメニューの誕生秘話や、書籍、植物の紹介などを掲載した。そして saku saku と併せて SIAF ラウンジに足を運んだことがない方にもラウンジの雰囲気を知ってもらえるような CM 動画を制作した。執筆や撮影、イラスト、編集、デザインなど全て SIAF ラウンジのスタッフが手掛けているので、ぜひコーヒーなど飲みながら気軽な気持ちで楽しんでもらいたい。

改めて 2020 年の出来事を思い返すと、確かに大変な状況ではあったが、この一年間に生まれたものが今なお継続していることを考えると、その意味では良いきっかけになったのではないだろうか。

SIAF2020 特別編が終わり、SIAF が再び三年後の開催に向けて動き出す。SIAF ラウンジでは先の取り組みに加え、これまでの SIAF の記録物、アーカイブを活用した新たな展開を担うことになるのである。

SIAF ラウンジスタッフ 杉本直貴





SIAF ラウンジの ここに注目!

クイズをきっかけに、お客さんと SIAF についてお話をする機会も増えました。今後も SIAF を知る入り口となるような企画を、いろいろやっていきたいと考えています!



SIAF 事務局マネージャー 漆崇博

SIAF ラウンジに入ってすぐ左手、本棚の上にある壁面に注目ください。2022 年 9 月より始まった「SIAF ラウンジアーカイブシリーズ」。これまでの SIAF (2014・2017・2020) の記録写真たちを、クイズ形式にてご紹介しています。

始まったきっかけは、これまでの SIAF の写真はたくさんあるのに、公開する機会がないのがもったいない・・・ということ。そこでまず、写真をデータベース化し、コンピュータで見ってもらうことにはしたものの、まだまだ SIAF に関心のない層には届きづらい……。興味を持って見てもらうには？どうやって見せたら面白いのか？いろいろと考えてたどりついたのが「クイズ形式」でした。気軽に参加できて暇つぶしにもなり、まさに一石二鳥！みなさんもやってみると、気づいたら SIAF のことを知っているかもしれませんよ。

SIAF ラウンジとわたし。 元 SIAF ラウンジスタッフ 田中あずさ

SIAF ラウンジでの日々は、アーティストと「わりと会える」の連続でした。500 年前の西洋の画家を「推し」として掲げる私にとって、作者と同じ時代、同じ地域に生きていること、さらに同じ空間にいるという状況は、なんだかとてもミラクルな気がして、現代アートはそんなに詳しくないくせに、大人気なく浮き足立ち、ソワソワしたのを覚えています。星の数ほどいる芸術の先人たちに連なるものが、姿を変えて目の前で結実していく様を見ながら、その場にいることに人知れずよく感激していました。

SIAF ラウンジとのご縁は、1 回目の札幌国際芸術祭にボランティアとして参加したのが始まりでした。2 回目でスタッフとして参加し、そのまま芸術祭終了後もお世話になりました。年の瀬毎度の「え、もう 12 月?! 早っ」×4 ほどの月日が経ちましたが、今でも毎朝、SIAF ラウンジと同じやり方でコーヒーを淹れています。



田中さんの SIAF での思い出の品々

Café の、ちょっといい話?

SIAF の開催テーマをモチーフにした期間限定の創作ドリンクが好評です。現在は第三弾「Of Roots and Clouds (2020 年テーマ)」をお楽しみいただけます。

味のベースはレモンガラスの香りとあざやかな青色が特徴の紅茶「バタフライピー」。練乳をすこし加えて SIAF ブルーを表現しています。ガラスの底のタピオカは Roots を、ガラスの上にふわりと浮かべたわた菓子も Clouds をイメージ。わた菓子はそのまま食べてもよし、紅茶に少しずつ溶かして味の変化を楽しむのもおすすめです。皆さん、ぜひお試しください。



SIAF ブルーに浮かぶ、
わた菓子の雲に
ほっこり。



第 8 回テーマ 「ケアとアート」

労働、障がい
子育てとケア

近年の高齢化社会や格差問題、そして 2020 年からの新型コロナウイルス感染症の流行による不安や孤独……。こういった状況の中で医療や福祉、心のケアなどを含む幅広い概念としての「ケア」に対する注目度は年々高まっていると言えます。今回は、ラウンジの本棚から、ケアとアートを結びつけるような二冊の書籍をご紹介します。一冊目は『美術手帖 2022 年 2 月号 特集 ケアの思想とアート』です。本書には、ひきこもり、



『美術手帖 2022 年 2 月号 特集 ケアの思想とアート』(美術出版社)

など、それぞれの視点でケアとアートを考えるアーティストへのインタビュー記事や対談が収録されています。社会の中で見えづらくなりがちなトピックを、作品を通して表現しようとするアートの営みから、私たちのこれからの生活のヒントを得られるように感じますね。二冊目は『金ヶ崎で表現の場をつくる喫茶店、コッルーム』です。詩人・詩業家の上田假奈代さんは、NPO 法人こえとこころとことばの庭(略称:コッルーム)の代表を務めています。大阪・西成区で喫茶店、ゲストハウスとして地域に開かれた場所をつくりながら、誰もが学び合ふことができる「金ヶ崎芸術



上田假奈代 著『金ヶ崎で表現の場をつくる喫茶店、コッルーム』(フィルムアート社)

大学」の運営も行うコッルーム。地域の一人ひとりの抱える問題や心の声に注目し、誰もが表現活動に触れられるようにするこの活動は、多様な人々がお互いを認め合い、「ともにいる」ことを模索するケアの思想と交わる部分があるかもしれません。今回は、ケアとアートに関係する二冊の本を紹介しました。アートを通して社会を見る新しい視点を発見したり、人と人とのつながりが生まれたりすることを考えると、アートとケアはとても近いものだと言えるのではないのでしょうか。